

オール北海道の振興のため、まずは自分たちが声を出して

第2青函トンネル整備の機運を高めたい。

福島町では、第2の青函トンネルの整備に向けて「第2青函トンネル構想を実現する会」を設立し、建設促進に向けた活動に取り組んでいます。

1 なぜ今、第2青函トンネルが必要なのか？

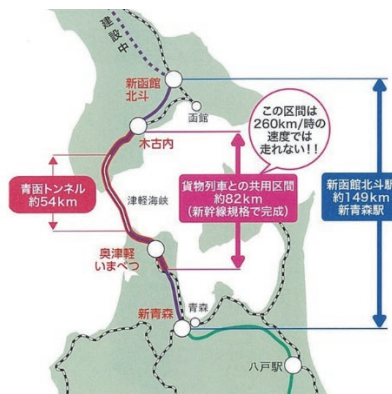
(1) 北海道新幹線が抱えている大きな課題

青函トンネルを含め貨物列車との「共用区間」は、すれ違い走行時の安全性の観点から、最高速度が160km/hに抑えられており、新幹線本来の性能が発揮できない。

(2) 津軽海峡が「北海道と本州間の*ボトルネック」

北海道と本州間の陸路は、青函トンネルの鉄道しかなく、青函間が人の流れと物流のボトルネックとなっています。

*ボトルネック=物事の進行の妨げになるもの

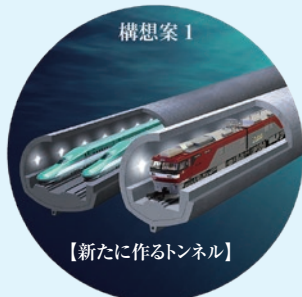


◆新幹線の“高速”かつ“安全”な走行を実現し、貨物の“安定輸送”にも支障のない方法は、新トンネルをつくり新幹線と貨物を分離する「**第2青函トンネル**」が有効な解決策となり得ます。

2 第2青函トンネル実現に向けて描く3つの構想

構想案 1

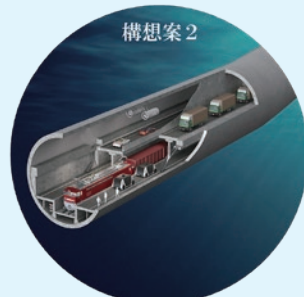
第2津軽海峡線建設構想(貨物専用・単線)
【鉄道路線強化検討会】



新トンネルの実現で課題を抜本的に解決し、新幹線本来の速達性を実現する

構想案 2

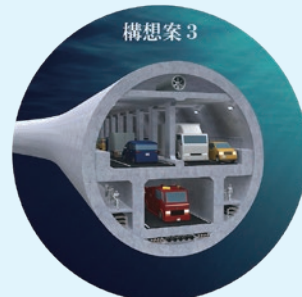
津軽海峡トンネルプロジェクト構想
【JAPIC】



上部に自動運転車専用道路・下部に鉄道貨物を併用する“2階建て”

構想案 3

第2青函多用途トンネル構想
【第2青函多用途トンネル構想研究会】



有人自動運転走行道路トンネルを実現する

3 第2青函トンネル構想を実現する会

福島町は、北海道の青函トンネル工事基地としてトンネル工事とともに歩んできたことから、トンネルに対する思い入れは大変深いものがあります。

第2青函トンネル構想を実現するため、「第2青函トンネル構想を実現する会」を設立し構想実現に向けた環境を整えるとともに、関係機関への働きかけや情報の収集に努めながら活動を展開してまいります。

また、将来的には北海道全体が一丸となり構想の実現を目指してまいりたいと考えておりますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

お問い合わせ先

企画課 企画係 ☎47-3007